

## 令和3年度第2回うらわ美術館協議会会議録

1 日 時 令和4年3月25日（金）午後2時00分から午後4時15分

2 場 所 さいたま市役所第二別館2階 教育委員会室

3 出席者 大越委員（会長）、加藤(弘)委員（副会長）、内藤委員、北原委員、西村委員、  
加藤(有)委員、斎藤委員  
細田教育長兼館長、千葉生涯学習部長、酒井副館長、野口係長、山田係長、  
梶主任

### 4 次 第

開会

議事

- (1) 令和3年度事業報告について
- (2) 令和4年度事業計画（案）について
- (3) その他

閉会

### 5 議事内容

副館長 皆様こんにちは。本日はお忙しいところ御出席いただきましてありがとうございます。  
ございます。

開会に先立ちまして、細田教育長兼館長より御挨拶申し上げます。

細田教育長兼館長 《挨拶》

副館長 ここで大変申し訳ございませんが、次の予定がございますので、細田教育長  
兼館長は退席させていただきます。

続きまして、事務局職員を自己紹介させていただきます。また、本日は千葉  
生涯学習部長にも御出席いただいておりますので、千葉部長からよろしくお願  
いいたします。

事務局 《事務局職員自己紹介》

[配布資料確認]

副館長 これより先は、うらわ美術館協議会規則第3条の規定により会長に議事進行を御願いたします。大越会長、よろしく御願いたします。

大越会長 それでは議事に入りたいと思いますが、出席者は7名、欠席者は3名ですから、今回会議は成立します。事務局にお尋ねしますが、傍聴希望者はおられますか。

事務局 おりません。

大越会長 傍聴希望者なしということで、次第にしたがって進行します。令和3年度事業報告について、事務局から説明をお願いします。

事務局 《令和3年度事業報告》

大越会長 ただ今の報告に何か御意見、御質問はありますか。

加藤委員 2点ありまして、Twitter や YouTube を頑張っており大変良いことだと思っています。ミュシャ展とタイガー展を Twitter で比べると、タイガー展はミュシャ展ほど「いいね」がついてなく、そういった時に、例えば関連の記事をリツイートするのですとか、Twitter を盛り上げるという意味ではそういうこともできるのかと、あくまで提案です。もちろん、時間の無駄になることもあるので、そこまでそれに入れ上げる必要はないですが、せっかくなのに盛り上がらないのは少しもったいないと思いました。「いいね」をしなくても見てくださる方はいらっしゃると思いますが、例えば同じツイートをリツイートして視認性を上げるとかも一つの方法です。あと、タイガー展で感動したものが、大画面でプロジェクションした試みで、うらわ美術館はとても天井が高いので、天井の高さを生かした展示をするといいいのではないかと思います。

斎藤委員 タイガー展で、富士山のネオン作品の床が綺麗に磨かれているところに、ちょうど逆さ富士のようになっていて、あれは美術館の方も考えて狙ってらっしゃったのだらうと思いましたが、そこで写真を撮られてる方がたくさんいました。私どもとしたら、その中の1点でも写真を撮れるというのはとても嬉しいです。ミュシャ展でも、確か1点だけ好きなのを選んで撮っていいというので、結構嬉しくて、それを撮って友人に SNS で送ったりもしました。そうした少し嬉しいことがあると、観覧者が盛り上がると思います。

事務局 SNSについては試行錯誤しながらやっております。リツイートについては、当館の Twitter の運用方針として返信をしないとしており、いろいろな御意見は、基本的に返信はできない形ですが、拝見しております。

加藤委員 わかりました。あと斎藤委員の話にありましたが、写真を一部撮れるというのはとてもいいと思います。全部撮影していいですとなると逆にあまり撮影しないのですが、1点だけ選べるとかですと、そういう写真を撮りたい人の冥利に尽きると思います。

事務局 本当にその通りで、写真を全て可にすると、じっくり見たい人にとって音の問題ですとか、本来の鑑賞を妨げてしまう恐れがあるので、逆に1点だけ選ぶとか、或いはこのエリアだけに限定したりと、能動的な鑑賞になってもらえればということで、今模索をしているところです。引き続き状況を見ながら、また御意見をいただきながら、工夫していきたいと思っております。

加藤副会長 それについて、とても面白い方法だと思います。SNSを個々に使う場合、やはり写真撮影ができた方が効果は上がります。ただ、それを嫌う来館者というのも、確実にいらっしゃるのでものをどのように制御するのかというのは課題になり、極端な例になると来館者同士のトラブルにもなりかねないので、そういう意味で、限定1ヶ所だけですよというようなことでいいのかと思います。とてもいい方法を考えつかれたと思います。

大越会長 若干何かトラブルのようなものはあったのですか。

事務局 撮影に関しては無く、1点選べて嬉しいという声の方が多かったです。趣旨をきちんと伝えるために、割と大きめのパネルで掲示するなどの工夫をしました。

大越会長 SNSの効果があるということは十分承知してるのですが、こちらのスタッフはそれを専門になさる方がいらっしゃるのですか。

事務局 当館は小規模の美術館で広報担当という者がおりませんので、展覧会担当ができる範囲で、あるいは各職員の得意分野を生かして随時やっております。

加藤副会長 お客様同士の SNS の発信の連鎖というところにまで持っていくことが SNS での広報効果だと思います。しかし、公立の美術館は返信ができない規定等ありますので、代わりに写真撮影を可にしたり動画をアップしておくことにより

SNSに参加しやすい仕掛けを作っていくことはできます。

ただ、問題としてSNSの情報は必ずしも正確には伝わらない点があり、会期が終わっても来館者がいらしたりとかしてしまうので、SNS以外の基本的な情報の発信も同時にしていかなければなりません。

大越会長 今後も前向きにということで皆さんとても評価してらっしゃいますので、工夫しながら続けていただければと思います。他にはいかがでしょうか。

北原委員 ミュシャ展とタイガー展は大勢の若い来館者がいて、展覧会の魅力があったのだと思いました。見ている人が大勢いることで、同じものを見ているという、ぬくもりのような共感のような雰囲気がありまして、ちょっと珍しい二つの展覧会だったと思いました。こうした地域の人を大切に、かつ広げて多くの人に見てもらえる企画を今後もお願いします。

大越会長 特にタイガー展は、今40代以上の人だと子供の時に見ていたという方が多くて、割と共有体験を持っている。赤の他人であっても何かそういうものを共有してる人が楽しんでいたという感じもしました。他にはいかがでしょうか。

西村委員 今なぜタイガー立石なのだろうと思って見たのですが、今回初めて彼の全体の仕事が見られて、改めて非常に作るのが好きな方だったのだと気が付きました。ただ、展覧会の展示の文字が多かったので、もう少しまとめてくれた方が見やすいと思いました。また、今私は障害を持った方の作品に携わっていますが、両者には、自分がやりたいことをやるという共通性を感じました。

事務局 タイガー展については生誕80周年ということもあり、おかげさまで今まで知られていなかった部分を知ることができた等の御意見もいただいております。同時開催の埼玉県立近代美術館が全体像とイタリア部門、うらわ美術館が絵本と漫画にフォーカスして展示しました。文字が多く小さくて見にくいという点は、絵本と漫画という特性もあるかと思います。

大越会長 うらわ美術館はわりと解説の必要のあるブックアートの展示もあつたりするので、いつもそのような御意見をいただきがちですね。

事務局 どこまで解説をするべきかはすごく難しい点があります。悩みつつではありますが、確かに見やすさというのは重要だと思いますので、今後工夫していきたいと思います。

齋藤委員 人の関心事によっても、やはり見方は違うので、それはそれでいいかと思えます。丁寧に書いていただければ、しっかり読みたい人は読むだろうし、そこまで好きじゃなければ飛ばしても、そういう自由もあっていいという気がします。

内藤委員 最近は解説をわかりやすく作ってあってそれを読むことで納得できることもあると思いますが、わたしはあまり丁寧には解説は読まず、作品のみを見ています。良い作品は黙っていても良いといった姿勢でいつも展覧会を見ています。

大越会長 今回の内藤委員と齋藤委員のお話にあるような、自分のやり方で見る力が持てる人を少しでも増やしていくということも、長い目で見たら美術館の活動の大きな意味だと思います。それでは私の方で質問をさせていただいてよろしいでしょうか。今年も収蔵品が増えていらっしゃると思いますけれども、最近、ある美術館で作品の紛失がありました。そちらの管理というのがきちんとなされているかどうか聞きたいと思います。

事務局 収集の登録は、当該年度で台帳を作り、著作権の処理や撮影等を行い、収蔵庫の適切な場所に収蔵するように努めております。ですが展覧会の準備等で、年度内にやるのが手一杯で、毎年すべての作品をチェックすることは他の多くの館と同様、なかなか難しいという現状です。ただ最近、全作品を移動して点検を行いました。収蔵品は個体数でいうと膨大な数に及び、点検は正直至難の技でしたが、全点確認しました。今後も引き続き個体数の確認や、状態のチェックを気を付けてやっていきたいと思っております。

大越会長 頑張ってください。どこも学芸員の数足りているとは言えませんが、当局の理解が深まることを期待します。

他には皆さんいかがでしょうか。それでは、今年度の報告については、ひとまず以上とさせていただきます。続きまして、資料の3番で令和4年度事業計画案についてお願いします。

事務局 《令和4年度事業計画説明》

大越会長 ありがとうございます。コロナ禍で中止になった展覧会が復活できることを喜ばしく思います。企画展の他にも少しずつマイナーチェンジをしながら、盛沢山の事業を予定されていますが、皆様から何か期待とかアドバイスなどありましたらぜひいただきたいと思えます。

加藤委員 冬の展覧会は面白いテーマだなと思います。すごく現代的なテーマで、日本は空気を読むという良くも悪くもそういうものもあるので、とても面白いと思いました。図録は作られる予定ですか。

事務局 はい。

加藤副会長 教育普及について、お伺いしたいと思います。普及事業に関しまして、コロナ禍の現在、美術館などに行きづらい状況というのが生じているのではないかと思います。主に学校等、利用状況は厳しいことになっているのでしょうか。

事務局 先ほど今年度の説明にもありましてとおり来館の形はほとんど無い状況です。来年度もどこまでできるかというところですが、その分こちらから出向くことをしていきたいと思っております。それも、これまでのやり方ではなく、子どもたちが密にならず、触らずに共有できる方法の提案として、教員用の動画を今年作成し貸出しをしています。

加藤副会長 学校でもオンライン化というのは進んでいるのでしょうか。

千葉部長 学校につきましては、GIGA スクール構想で小中高等学校、特別支援学校、1人1台の端末を子どもたちに配っています。ですからそれでオンラインでいろいろな番組が見られるように研究しているところです。

加藤副会長 現在、美術館ではオンラインを用いたプログラムを工夫しています。その際、今度は美術館側のそういったインフラの面がどれくらい整っているかが大きいです。一つ大きな問題として動画等でやりとりをする場合に、相当しっかりした通信のシステム、通信量が確保されたものがないと途中で途切れたりとかうまく繋がらないこと等があります。ですからその辺を専門スタッフだけでなく館として全体で整備していかないと、なかなかうまくいかないのだろうと実感していますので、館全体で検討してそれができる環境なのかというところからの見直しは必要だと思います。

千葉部長 ありがとうございます。ぜひ、研究してやっていきたいと思えます。

加藤委員 ロシアとウクライナの問題について、交通が遮断されて困ることとか、何か今までよりも費用がかかってしまうことなどはありますか。

事務局 来年度については今のところは大丈夫です。

大越会長 海外から直接の借用等がない場合でも、すでにガソリンが高騰しているように、資材の高騰等、美術館の活動に関わる諸経費が相当値上がりするのではと思います。

加藤副会長 今組んでいる予算の範囲内では不足の事態も起こりうる可能性も想定しておかないと身動きが取れなくなることがあるかもしれません。

大越会長 そうですね、用心しながら進めていった方がいいかと思います。他にはいかがでしょうか。

西村委員 館長は教育長と兼任ですか。

事務局 そうです。

西村委員 今の館長の前には、館長が別にいらっしゃったのですか。

事務局 前の教育長が教育長当時から兼務しており、退任された後うらわ美術館の専任館長となりました。

西村委員 美術の専門家でなくて運営上は問題ありませんか。

千葉部長 運営上は今のところ問題ありません。ただ学芸員の力というものがかなり要求される場所がありますので、その最前線で係を中心に頑張っているのが今の事業係長です。

大越会長 自治体によってもいろいろあると思いますが、こちらは最初の館長が専門職でしたので、将来的には学芸畑の人が1人でも増えたほうが、アイデアも多くなるし、質が上がる可能性が高いと思います。そういったことも考えていただきたいと思います。

加藤副会長 集客の面からも、専門職の館長がギャラリートークをするというだけで人が集まったりするのを他の美術館で見たことがあります。そういう意味でも、美術館のイメージとか顔というものをどう作っていくのかということが、おそらく館長としての人事の、利便性という側面も非常にありますので、ただ単に専門職だからというだけではなく、館として、もしくは自治体の文化活動の顔としてどういうふうに見せていきどうアピールしていくのかという意味でも必要な側面はあると思います。

副館長 様々な自治体の形があるということもありますが、貴重な御意見として頂戴いたします。

西村委員 私は長年視覚障害教育に携わってきて、アメリカでは障害者の方も利用できるようにそれぞれの美術館が非常に研究されていて、やっと日本でも国として動いてるわけなのですが、なかなか現実問題として変わっていきません。本来こういう公共機関というところは、すべての人に開かれているはずなのですが、残念ながら、なかなかそういった対応ができないという現実があります。

アメリカの美術館で感心したのは、どこの美術館でも、教育部門の学芸員の方が非常に充実していて、日本ではそういう教育のこともすべて1人の人がやっていることが多い。特に教育部門というのは学芸員の方の研究発表ではなくて、すべての人に見てもらい理解していただく、楽しんでもらえるような専門分野でありますので、そういったところにも力を入れていただきたい。

大越会長 視覚障害者のガイドについては、小規模ですけれども始めている館は少ないと思います。ただ、たとえ相手が1年に1人とか2人とかしかいらっしやなくてもそれなりに準備から実施までエネルギーが必要なことで、正直、片手間でできるようなものではありません。ですから今学校の先生が1人配属されていると思いますけれども、子供たちの案内もあり、他のワークショップもあり、それに加えてそういうところを充実させていく必要がある。正直なところお金と人が増えると美術館はかなりのことが解決できます。ぜひ、少なくとも人という面については、努力を重ねて欲しいと思いました。他にはございますか。

北原委員 今の西村委員の話は、美術で豊かに暮らせる、人生が楽しくなるといった条件がどの人にも与えられているということの提言だと思います。美術、文化、暮らしが豊かになっていくことを私達は忘れないようにしなければいけません。

また、今度の展覧会はいよいよ浦和の画家たちが登場しますので、そういうところがまた掘り起こされるといいなと思っております。楽しみながら文化の本質が理解できる展示になるようよろしくお願いします。

大越会長 良いアドバイスありがとうございました。他に御意見なければこれでよろしいでしょうか。これで本日の会議を終了させていただきます。